

内科学 I		講義	教授 加藤 政彦	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング		12321302 12351202

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。診察の基本を学び、柔道整復師や救急救命士が臨床の現場で注意を払わなければならない症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 診察概論、医療面接	9. 生命徴候（体温、血圧、脈拍、呼吸）
2. 視診①（体格・体型、体位・姿勢、栄養・精神状態）	10. 感覚検査（表在感覚、深部感覚、複合感覚など）
3. 視診②（異常運動、歩行、皮膚）	11. 反射検査①（種類、意義、表在反射、腱反射）
4. 視診③（頭部・顔面、頸部、胸部、腹部）	12. 反射検査②（病的反射、クロウヌス、自律神経反射）
5. 視診④（背部・腰部、四肢）	13. 臨床症状①（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹など）
6. 打診、聴診（肺・心臓）	14. 臨床症状②（関節痛、浮腫、肥満、やせ）
7. 聴診（腹部）、触診（皮膚・皮下組織、筋肉）	15. 検査法（生命徴候、生理機能、検体、運動機能）
8. 触診（骨・関節、胸部、腹部、リンパ節）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には 90 分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師、救急救命士として必要な一般臨床医学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：全国柔道整復学校協会監修，一般臨床医学 改訂第 3 版，医歯薬出版株式会社，2013 年

参考文献：明治東洋医学学院編集委員会編，2024 第 22 回～第 31 回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023 年

小関一英編，2023 年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022 年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりである。